西大和学園補習校４年　連絡表　　２０１６年３月５日　　名前（　　）

国語①	今週の学習	未来の自分に手紙を書こう「十年後のわたしへ」	チェック
	今週の宿題	●音読「初雪のふる日」 ●ドリルの王様Ｐ７９～８２	
	3/19の学習	４年生のまとめ	
国語②	今週の学習	４年生のまとめ	チェック
	今週の宿題	「漢字の学習（下）」やっていないページをすべて終わらせる。→3/19に提出	
	3/19の学習	４年生のまとめ（漢字の学習（下）を使います。忘れずに持って来てください）	
算数	今週の学習	直方体と立方体（Ｐ９９～１０１）	チェック
	今週の宿題	算数ドリル　４３、~~44~~ ～ 48	
	3/19の学習	４年生のまとめ	
理科（選択）	今週の学習	水の星、生命の星　地球（Ｐ１７０～１７１）	チェック
	今週の宿題	なし	
	3/19の学習	お楽しみ実験	
社会（選択）	今週の学習	教科書ｐ１５２～１５５	チェック
	今週の宿題	教科書ｐ１５６～１６１の音読と語句ノート、ドリルの王様Ｐ８１～８４	
	3/19の学習	教科書ｐ１５６～１６１	
お知らせ		●３月１２日は６年生・９年生の卒業式が行われます。 ●３月１２日に連絡票は配布されませんので、再来週の１９日の学習予定までを今回のものに記載しております。 ●今週の宿題等は、３月１９日に提出することになります。卒業式の日には、お手紙ファイルや教科書、宿題等は必要ありません。	

音読の宿題

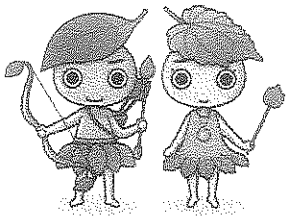
おうちの人に聞いてもらって、読み終わったら書いてもらいましょう。１日１回を目標に！

読んだところ		回数	最高！！◎　いいね！○　がんばろう△			おうちの人のサイン
			声の大きさ	読むはやさ	気持ち	
土	初雪のふる日（Ｐ１０４，１０５）					
日	初雪のふる日（Ｐ１０６，１０７）					
月	初雪のふる日（Ｐ１０８，１０９）					
火	初雪のふる日（Ｐ１１０，１１１）					
水	〃					
木	初雪のふる日（Ｐ１１２，１１３）					
金	〃					
土	〃					
日	初雪のふる日（Ｐ１１４，１１５）					
月	〃					
火	〃					
水	初雪のふる日（Ｐ１１６～１１８）					
木						
金	〃					

株式の価値は業績や輪廻に「十倍楽のさわっく」

的確 [ ]

「葉っぱのフレディー」



1．春はとっくに　すぎました。　　2．夏もとうとう　すぎました。

3．葉っぱのフレディは、もうすっかり　大きくなっていました。　身体は強くてたくましく、五つにわかれた葉っぱの先は、ぴんととがって　しゃんとしていました。

4．フレディが生まれたのは春でした。　背高のっぽの大木のてっぺん近くの大ぶりの枝にかわいい新芽をのぞかせました。

5．フレディのまわりには、数えきれないほどたくさんの葉っぱがしげっていました。「みんな　ぼくとそっくりだね」　そう思っていたフレディは、まもなく　気づきました。　おなじ木から　生まれてきたのに、みんなそれぞれどこかがちがっているのです。　となりにいるのはアルフレッド。右にいるのはベン。　そして上にいるのはかわいい葉っぱのクレアです。　みんないっしょに大きくなりました。　春はそよ風にさそわれてみんなでダンスをおどり、夏は　おそろいでのんびりひなたぼっこにふけり、夕立がくると、　みんなでいっせいにからだを洗って、すっきりしゃっきりさわやか気分で涼みました。

6．けれどもフレディのいちばんの仲よしは、なんといってもダニエルでした。　みんながいる大枝の中でいちばん大柄なダニエルは、どうやら生まれたのもいちばん早くて、おまけにみんなの中ではいちばんかしこそうでした。　「みんなは　一本の木の一部分なんだよ」　こう教えてくれたのはダニエルでした。「みんなは公園で大きくなっているんだよ」　そう教えてくれたのもダニエルでした。「みんながいる木にはじょうぶな根っこがいっぱいはえていて地面のおくふかくにしっかりとのばしているんだよ」　これもやはりダニエルが教えてくれたことでした。　朝になるとみんなのいる枝にやってきて、せっせと歌をきかせてくれる小鳥たちのことや、お日さまやお月さまやお星さまや移り変わる季節のことについても、ダニエルはいろいろと教えてくれました。

7．フレディは、自分が葉っぱであることが大好きでした。　自分がいる枝も大好きだったし、身がるな葉っぱの仲間たちも大好きでした。自分が空高くにいることも大好きだったし、さわさわと身体をゆすってくれる風も大好きでした。　ぽかぽかと身体を温めてくれるお日さまの光も大好きだったし、ほんわかほの白い光で優しくそっと包んでくれるお月さまも大好きでした。

8．とりわけすてきだったのは夏でした。　昼間の長い暑さも心地よかったし、　ほとぼりの残る夜の暑さもやすらかな夢路へといざなってくれました。

9．その夏には、たくさんの人が公園へやってきて、　フレディのいる木の下によくすわりました。　ダニエルは　レディにいいました。　「この人たちの日かげになってあげることも、　いつかきみがたずねていた生きる目標の一つになるんだよ」、と。

10．それはね、　いつだったかフレディが　ダニエルに　こうたずねたことが　あったからなんだ。
「ぼくたちは　いったいなにを目標にして生きていったらいいんだろうね？」、って。

11．そのときダニエルは、　こう教えてくれたんだ。「生きたあかしをしめすことだよ。　自分がこの世に生まれて今ここにいることにはちゃんとした意味があるんだなって、そう思えるような生きたあかしをね」、と。

そしてダニエルはさらにつづけてこういったんだ。「なにかほかの人のやくに立つようなことをしてよろこんでもらえるのは、　生きたあかしになるんだよ。　じぶんの家があつくるしいからってこの公園へのがれてきているお年よりの人たちに木かげをつくってあげることも、　生きたあかしになるんだよ。この公園へきて遊べるようにと子供たちに涼しい場所をつくってあげたり、　この公園に　チェック模様のテーブルかけをしいて　その上で　お弁当をたべようかなとやってきた　ピクニックの人たちをぼくらの葉っぱであおいであげるのも、　ぜんぶ生きたあかしになるんだよ」、と。

12. フレディがとりわけ好きなのは お年よりの人たちでした。 みんなは、 ひんやりした草むらへそっとすわると、もうほとんど動こうともせずに、昔の思い出話をささめき合っていました。

13. フレディは子供たちも大好きでした。 もっとも彼らはときどき、フレディのいる木に穴をあけたり、 自分の名前をほりこんだりするいたずらもしたけれど、 それでもフレディは、子供たちのすばしっこく走りまわる姿や 大声で笑いころげる 元気なようすをながめていると、とても楽しかったのでした。

14. けれども、フレディのだいすきな夏は見る間にすぎてゆきました。

15. そして夏のなごりがすっかり消えたのは、十月のある夜のことでした。 いままでに出あったことのないような寒さがおそってきたのです。葉っぱはみんな 寒さにふるえました。 白いものがうっすらとみんなのからだ一面をおおいました。 それは朝日にあたるとたちまちとけてしずくになって葉っぱをぬらし、きらきらと輝きました。

16. こんどもまた、あれこれと教えてくれたのは、やはりダニエルでした。 みんなのからだにくっついたのは初霜で、これは 秋になったしるしで、やがて冬がくるよという知らせなのだ、と。

17. ほとんど一瞬のうちに フレディのいる木は まるごと・・・・おやおや、よく見ると なんと公園全体がまるごとあざやかに 色づいているではありませんか。もう、緑色をした葉っぱなんて、ほとんどどこにも見当たりません。

アルフレッドはこい黄色に、ベンは明るいオレンジ色に、クレアはもえ立つような赤色に、そしてダニエルはこい紫色にとそれぞれすっかり衣がえをしていました。

そして フレディったら、 なんと赤・青・金の三つの色ですっかりめかしこんでいるではありませんか。 みんなは、 それはそれはほんとうにみごとなものでした。 なにしろフレディとその友だちは、自分たちのいる木をまるで虹のように染めかえてしまったほどですからね。

18. 「ぼくたちはみんな同じ木にいるのに、どうしてちがった色になるのかな？」 フレディにはどうもふしぎでした。

19. 「ぼくらはみんな、それぞれどこかがちがっているからだよ。 体験したことも 一人ひとりちがっているし、 お日さまへの向き方もみんなまちまちだった。 ぼくらのつくる影だって同じものは ひとつとしてなかっただろう。だから、みんなそれぞれ 別々の色になったって、ちっとも 不思議じゃないんだよ」 ダニエルは 淡々と答えました。 そして、「このすばらしい季節は、秋というんだよ」、と フレディに教えました。

20. ある日、とてもおかしなことがおこりました。いままで ダンスにさそってくれていたそよ風が、 葉っぱのつけねをぐさぐさとゆさぶりはじめたのです。 まるで八つ当たりをするみたいにね。 そのために、葉っぱのなかには枝から引きちぎられて風に舞い、あちらへ投げられ、こちらへほうり出されてはふらふらと地面に落ちていくものもでてきました。

21. 葉っぱという葉っぱは みんな おびえだしました。

22. 「いったい、なにがおこっているんだろう？」 おたがいに ひそひそとたずね合いました。

23. 「これは、秋になるとおきることなんだよ」みんなにこう教えたのは、ダニエルでした。 「葉っぱのぼくらが すみかを変えるときがきたんだよ。 なかにはこれを"葉っぱが死ぬときだ"なんていう人もいるけどね」

24.「ぼくたちは、みんな死ぬの？」フレディは　もう　びっくりぎょうてんです。

25.「そうだよ」、とダニエルが答えました。　「どんなものでも、かならず死ぬんだ。　どんなに大きくても　小さくても、どんなに強くても　弱くてもね。　ぼくらはまず、自分のつとめをはたす。 お日さまの光をあびて、お月さまの光につつまれる。 風にふかれて、雨に洗われる。みんなでダンスをおぼえて、 みんなで笑う。　そして　死んでいくんだよ」

26.「ぼくは死なないぞ！」 フレディは　きっぱりと言いました。　「きみはどうするの、ダニエル？」

27.「ぼくは死ぬよ。そのときがきたらね」

28.「それはいつくるの？」 フレディは　気が気ではないようです。

29.「はっきりしたことは、だれにもわからないんだ」 ダニエルは答えました。

30. フレディは、 ほかの葉っぱがつぎつぎと散っていくのに気がついて、 ふと思いました。　「きっとこれが葉っぱの死ぬときなんだろうな」、と。フレディが見ていると、なかにはけんめいに風にさからってはみたもののとうとうふき飛ばされてしまう葉っぱもあれば、はじめからあっさり手をはなしてだまって落ちていく葉っぱもありました。

31. やがてフレディのいる木には葉っぱはほとんどなくなりました。

32.「ぼくは　死ぬのがこわいよ」フレディはダニエルにいいました。　「死んだあとどうなるのかわからないんだもの」

33.「フレディ。　ぼくらはだれだって、よくわからないことはこわいと思うものなのさ。あたりまえだよね」　ダニエルは、フレディの気持ちをやわらげるように　いいました。　「でもきみは、春が夏になっても　こわくはなかっただろう。　夏が秋になったときもそうだったよね。季節がかわるのは　自然のなりゆきなんだ。　だから、いつの日かぼくらが死ぬ季節というのがやってきたとしてもこわがることなんか　ないんだよ」

34.「ぼくたちがいるこの木も　死ぬのかな？」 フレディは　たずねました。

35.「いつかはね。でも、この木より　もっと強いものがあるよ。　それは　いのちなんだ。　いのちは　永遠に続くんだ。
　そして　ぼくらはみんな　その いのち の一部分っていう　わけなのさ」

36.「ぼくたちは、死んだらどこへ行くのかな？」

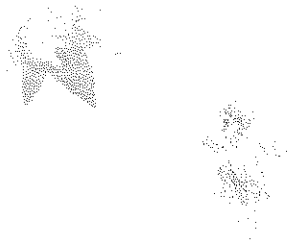
37.「はっきりしたことはだれにもわからないんだよ。　なにしろこれは昔から、とっても大きな　なぞなんだから」

38.「ぼくたちは、春になったまたここへもどってこれるのかな？」

39.「ぼくらはだめかもしれないね。でも、 いのち　はまたもどってくるだろう」

40.「じゃあ なんのために こんなことが おこっているの？」 フレディは さらにたずね続けました。 「ぼくたちは けっきょく、落ち葉になって死んでいくだけだけだとしたら、じゃあいったい なんのために この世に生まれてきたんだろう？」

41.ダニエルは、いつものように 淡々と答えました。「お日さまやお月さまだって、生まれてきてもいつかは消えていかなくっちゃならないんだ。みんなでいっしょにすごす、しあわせなひとときだってそうなんだ。 木かげや、お年よりや、子供たちだって、そうなんだ。 秋のあのあざやかな色どりだってそうなんだ。 春、夏、秋、冬の季節だって、そうなんだ。 どれもこれも、昔からぜんぶ、ずっとそうだったんだ。 さあ、これだけいうともうわかっただろう」



42.その日の夕方、金色の夕日をあびながら、ダニエルは そっとしずかに枝をはなれていきました。
そして落ちる間じゅうもずっと、おだやかにほほ笑んでいるように 見えました。
「それじゃあ またね、フレディ」ダニエルは そう言いました。

43.こうしてフレディは、一人ぼっちになりました。 あの枝にのこっているたった一枚の葉っぱでした。

44.つぎの朝、初雪がふりました。 やわらかで、おだやかで、まっ白な雪でした。 でも、なんと冷たいのでしょう。 その日 お日さまはほとんど顔をださず、早くから日が暮れました。 フレディは、 自分のからだが色あせて、もろくなっていることに 気づきました。
気温はまったくあがらず、フレディは 雪の重みをひしひしと感じました。

45.明け方に風がふいて、フレディはとうとう枝から引きはなされてしまいました。でも、 フレディはぜんぜんいたくはなかったのです。 フレディには、自分のからだが すーっとういて、それからゆっくりふわーっと下に落ちていくのが自分でもわかりました。

46.落ちるとちゅうで フレディははじめて見たのです。 自分が生まれそだった木の、そのまるごとの姿を。
なんと強くて 丈夫そうなのでしょう。「これならきっと、うんと長生きしてくれるぞ」 フレディは そう思いました。そして、「ぼくはやっぱり この木の一部分だったんだ」 そうわかると、誇らしく思えてきたのでした。

47.フレディが舞い落ちた先は、雪だまりの上でした。 そこは なぜだかやわらかくて、ぬくもりすら 感じられました。こんなに居心地のいいところは、はじめてでした。 フレディは 目をとじると、永遠の眠りにつきました。

ところでフレディは、冬のあとには春がきて、雪がとけると水になるなんて、ちっとも知らなかったのでした。 また、まったくの役立たずのようにみえる 自分のひからびたからだでも、やがては土にかえって 水にとけ、 自分が生まれそだったあの木を いっそうじょうぶにさせる役目をはたすのに、 そんなことも フレディはまったく 知りませんでした。

ましてや、自分がいた木や 地面の中では、 春になったら 若葉をいっぱい芽ぶかせる準備がすっかりととのっていて、冬の間じゅうじっと静かに出番をまっていたなんて、 フレディには とてもわかりっこなかったのでした。

4年理科　生命のつながり　2016年3月05日　　4年　　組　　名前：

「葉っぱのフレディー」　を読んで話し合いましょう。

1. フレディーはいつ・どこで生まれましたか。(4)

2. 夏になるとフレディーのようすはどうなりましたか。(3)

3. フレディーのまわりにはどんななかまがいましたか。(5)

4. 春、フレディーたちは何をしましたか。(6)

5. 夏、フレディーたちは何をしましたか。(6)

6. フレディーの一番のなかよしのダニエルのことをフレディーはどのように思っていましたか。(6)

7. ダニエルはフレディーにどんなことを教えてくれましたか。(6)

8. フレディーは自分のことをどのように思っていましたか。それはなぜですか。(7)

9. フレディーはいつの季節がすきでしたか。　それはなぜですか。(8)

10. 生きる目標についてダニエルはどういうふうに教えてくれましたか。(9～11)

11. フレディーたちは人々に役立っていました。　どんなことがありましたか。(11~14)

12. 夏が終わり十月のある夜どんなことがおきましたか。(15)

13. 12のそれについてダニエルはなんて教えてくれましたか。

14. なかまの葉っぱたちのようすはどのように変わってきましたか。(17)

15. 14のように変わってきたことについてダニエルはなんて教えてくれましたか。(19)

16. その後、葉っぱたちはどうなりましたか。(20~21)

17. 16 についてダニエルはなんて教えてくれましたか。(23～25)

18. 「死ぬ」ごとについてフレディーはなんと言いましたか。　ダニエルはなんと言いましたか。(26～29)

19. その後、葉っぱたちはどうなりましたか。(30～31)

20. 「死」をこわがるフレディーにダニエルはなんと言っていますか。(33)

21. 「いのち」についてダニエルはなんて言っていますか。(35～39)

22. 「なんのために生まれてきたの？」とフレディーの質問にダニエルはなんて言っていますか。(41)

23. ダニエルが枝からはなれるときのようすはどんなふうでしたか。

24. ひとりぼっちになったフレディーはどうなりましたか。　何を感じましたか。(44～45)

25. フレディーが枝を離れるとき、何を見ましたか。　そしてどう思いましたか。(46)

26. フレディーは最後にどうなりましたか。(47)

27. フレディーたち葉っぱは死んだ後も大切な役目をしました。　それはどんなことですか。

28. 枝を離れるとき、フレディーはどんな気持ちだったと思いますか。

29. フレディーが痛くもこわくもなく満足できたのはどうしてだと思いますか。

30. 今の自分を降り返ってみましょう。　今、あなたは精一杯にやっていますか。
人のためにつくしていますか。

生命のつながり（植物の一生）　　2016年3月05日　　4年　　名前：

葉(は)っぱのフレディーの一生(いっしょう)を四季(しき)（春(はる)・夏(なつ)・秋(あき)・冬(ふゆ)）の移(うつ)り変(か)わりとともにかいてみよう。